

残薬削減に影響を与える薬局薬剤師の介入内容とその効果

横山 瑞樹¹⁾、深澤 貴裕²⁾、齋藤 翔太³⁾、加藤 諒⁴⁾、市ノ渡 真史²⁾、前田 守⁵⁾、
長谷川 佳孝⁵⁾、月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 古川店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ
- 3) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 遠野店
- 4) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 新庄店
- 5) 株式会社アインホールディングス

【目的】残薬は、医療費増加の原因の一つであり、薬局薬剤師がかかりつけ機能を發揮して解消することが期待されている。過去に当社で実施した調査において、当社の薬局薬剤師の介入で1店舗あたり年間約32万円であり、当社グループ約1000店舗で年間約3億円の残薬削減効果が得られている可能性を示唆した(第51回日本薬剤師会学術大会にて発表)。そこで本研究では、残薬削減に影響を与える薬局薬剤師の介入内容について検討した。

【方法】当社が東北地方6県で運営する保険薬局44店舗で2018年11月～2019年1月に発生した残薬調整(疑義照会やトレーシングレポートなど、薬局薬剤師の介入が結果的に残薬調整に寄与した事例)を社内イントラネットにて調査した。主な項目は、「削減品目数」「削減金額(薬価ベース)」「残薬発生の経緯」とした。

【結果】本研究にて765件の残薬調整が実施され、その削減金額は約277万円であった。残薬発生の経緯は、「飲み忘れ(46.7%、3,775±6,257円/件)」が最も多く、次いで「自己調節(22.6%、2,422±6,212円/件)」であった。

【考察】本研究における残薬削減効果は1店舗あたり年間約25万円であり、当社グループ1129店舗にて同様の削減効果を得たとすると年間約2億8千万円と試算され、前回調査時と同程度の残薬削減効果が維持されていることが示された。最も件数が多かった残薬発生の経緯は「飲み忘れ」であり、上記と同様に当グループ全体での残薬削減効果を試算すると、年間約1億4千万円であった。したがって、薬局薬剤師が患者の服薬アドヒアランス向上にむけて取り組みことは、残薬の発生を減らし、安全かつ効果的な薬物治療の実現に貢献するだけでなく、ひいては医療費の増加を大きく抑制することが示唆された。

(第13回日本薬局学会(2019年10月,神戸)にて発表)